



# IUFRO-J NEWS

No. 22 (1984.6)

## 第18回ユフロ大会の準備進む

昨年のマナウス理事会以後、バックマン副会長を中心に枠組みの検討が進み、3月8、9両日には、ウィーンに会長、副会長、6部会長、ドリンシュク大会事務局長が参集して要綱がかためられたようです。

日程の基本的な組立ては京都大会に従っており、1986年9月7日(日)登録、8日(月)午前開会式、13日(土)午前閉会式、9日(火)～12日(金)は毎日朝、特別講演を予定しています。

シンボルテーマは、IUFRO NEWS 43号に紹介されたように Forestry Science Serving Society です。マナウス理事会の前半では Society にするか Humanity にするか論議が残されていましたが、結局 Society が採用されたようです。

今回も発表の形式は招待論文、討議論文(ボランティア論文)、ポスターの3種類とされており、いわゆる大会分科会のテーマの検討が部会ごとに開始されています。

17回大会の経験にてらして、18回大会ではいわゆる大会分科会の数を減らし、その代り4つの部会間集会を考えています。まだ仮の題ですが次の4つで、(1)、(2)および(3)、(4)はそれぞれ同時併行して開かれることとなります。(1) Social and economic forestry, (2) Wood resources, (3) Atmospheric deposition, (4) Forestry and energy (訳しにくい言葉がありますので原題としました)。

プロシーディングズの編成も京都大会方式をとっており、招待論文とポスター発表要旨(半ページ)が部会ごとにまとめられます。何れも締切りは1986年2月を目途としています。

何れにしるまだ検討中のものですが、9月上旬のヘルシンキ理事会ではほぼ確定され、今のところの予定では、本年末か明年早々に第1回のサーキュラーを全会員に配布したい意向のようです。(浅川澄彦)

## アジア地域研究計画ワークショップ

前号でご紹介した発展途上国の林業研究推進計画の一環として、きたる7月16日～28日の間、スリランカのキャンディで標記の会議が行なわれる運びとなっています。なおここでいうアジア地域は、ユフロの9地域区分の中のアジア地域と西太平洋地域を併せたものです。

テーマは「多目的樹種の生産性を最大にすること」で、はじめの4日間に報告される話題は次のようなもので

す。

基調講演: 多目的樹種に関連したこれまでの農・林業研究からの教訓

討議分野 1: 林木育種と繁殖に関する研究

- 1.1 遺伝資源の確認と保全
- 1.2 樹種・産地・生殖質試験
- 1.3 優良種子の生産

特別1 単一システムの構成部分としての多目的樹種の育成, 収穫, 利用および取引

1.4 無性繁殖(さし木, 組織培養など)

討議分野 2: 造成・保育技術に関する研究

2.1 立地の選択

2.2 効率的な人力地拵え法

2.3 効率的な機械力地拵え法

特別2 多目的樹種の育成, 収穫および利用に関連した社会経済的研究の必要性

2.4 育苗技術

2.5 立地と植栽材料の種類に応じた植栽技術

2.6 雑草防除の時期と方法

討議分野 3: 林木の生産性の増大と維持

3.1 土壌生物学的にみた窒素固定樹木の役割

特別3 天然更新の選択

3.2 化成肥料施用とその経済的視点

3.3 森林保護(火災, 動物, 病害虫)

討議分野 4: 造林・経営に関する研究

4.1 とくにエネルギーのためのバイオマス生産に関連した植栽密度と間伐

4.2 収穫・集運材の仕組み: 皆伐と植栽, 萌芽枝収穫(低刈り, 高刈り), 枝条収穫

特別4 実験計画 (a) 樹種, 産地, 生殖質試験, (b) 植栽密度, 間伐試験

各分野の討議リーダーにはそれぞれインド, パキスタン, フィリピン, マレーシアの林試場長が予定されており, また各分野の取りまとめ担当者には先進国の専門家が指名されています。話題提供者はまだ多少流動的のようですが, ほとんどは参加国の指導的研究者たちです。

4日間の討議のあと1日休み, その後3日間は討議リーダー, 取りまとめ担当者らが研究推進のための計画書といったものの原案を取りまとめ, 最後の5日間に, 全体討議, 分野別討議, 全体討議を経て計画書を完成することになっています。

このワークショップでつくりあげられる研究推進計画が, 地域内各国の研究推進にどのように活用されることになるのか, 必ずしもよくのみこめませんが, きたる9月の理事会では説明があるものと予想されます。

(浅川澄彦)

## 生物生産力 (S1.06) 研究集会の開催について

開催責任者・林試 藤 森 隆 郎

IUFRO 第1部会の Biological Productivity (生物生産力) Subject Group の Working Party, Sl.06.02 (チェアマン, 藤森隆郎) が下記のように研究集会を開催します。

期日: 1985年10月14日~10月20日

場所: 筑波学園都市(林業試験場, 又は技術会議), 後半の3日間はエクスカージョン。場所は検討中

テーマ: Crown and Canopy Structure in Relation to Productivity (樹冠および林冠構造と森林の生産力)

森林の生産機構の解明, 生産力の把握, 生産力の制御技術にわたって生態生理, 生態, 造林関係の研究者が討議する場とします。発表できる課題の範囲は下記のとおりです。

1. 樹冠の構造と機能

1) 樹冠構造と林木の生長の解析とモデルの作製

2) 樹冠における生産過程の生態生理的解析  
光, 水, 温度, 無機養分の樹冠の構造と機能に与える影響

樹冠による生産物の樹体各部への配分

3) 樹冠構造と光透過との関係

2. 森林群落の生産構造と生産力

1) 森林タイプごとの生産構造と生産力

2) 生育過程にともなう生産構造と生産力の動態

3. 樹冠構造の制御

1) 育種的手法

2) 保育的手法

今年の秋に, 具体的なプログラムの作製を行ないます。発表件数が多くなればポスターセッションも考えております。

第17回 IUFRO 京都大会の時に, 第1部会のリーダーのムリンセク氏(現 IUFRO 会長)が「生産力部会は重要であるにもかかわらずほとんど活動していないので

これを強化する必要がある」として役員の刷新をはかりました。その時に、生産力の研究に関する日本の実績が高く評価され、この研究グループの活動に日本の役割を強く求められた幸いです。

したがって実質的には新しいグループの最初の研究会となり、その重要さ、難しさなどが交錯しております。この研究会に関心のある方は是非積極的に御参加いただきたく思っております。

いうまでもなく一次生産力の大小は、林産物の供給、環境保全機能の大きさを基本的に規制するものであり、生産機構、生産力の研究には広い分野の研究者の討議が必要と思われまゝ。IBP (国際生物学事業計画) の実施

時期に生産力の研究は大きく進展しましたが、それから10年、今度の研究会は我々日本にとっても新たな研究の展開への一つの契機となることを期待しています。

この研究会へのお問い合わせは下記に御連絡下さい。

〒305 茨城県 筑波農林研究団地内郵便局私書箱16号  
林業試験場造林部  
生産力研究会運営委員会事務局  
Tel 0298-73-3211  
内線 375 (藤森隆郎・金沢洋一)  
374 (森川靖)

## 太平洋地域木材解剖学大会について

大会運営委員会・林試 須藤 彰 司

前回および前々回の IUFRO-J News でお知らせいたしましたように、太平洋地域木材解剖学大会が10月1日から7日まで、筑波の農林水産省林業試験場で行われます。

現在、日本を含め14ヶ国から約70名の参加希望者があります。また、大会発表の抽象ラクトは I. A. W. A (国際木材解剖学会) Bull. に掲載されることになっておりますが、抽象ラクト締切り日までに到着したものは64編に達しております。抽象ラクト締切り後に到着したものは、発表を希望しながら抽象ラクトを送って来ていないものを含めると、70編を超えています。抽象ラクトの受け付けは、すでに締切っておりますが、発表の受け付けはしておりますので、ご希望の方は至急事務局宛申込んで下さい。

現在までの外国からの参加申込者は以下の通りですが、問い合わせの状況から考えると、これからも、かなりの参加申込があることが予想されます。

外国からの参加申込者 (5月15日現在)

Dr. J. J. Shah, (cont.)	
Dr. Pieter Baas	The Netherlands
Dr. Ken Bamber	Australia
Dr. K.M. Bhat	India
Dr. Hans Heinrich Bosshard	Switzerland
Dr. Lee Chenglee	China
Dr. Wilfred A. Cote	U. S. A.

Dr. S. K. Datta	India
Mr. John Ford	Australia
Miss Aracely Vidal Gomes	Brazil
Dr. Dietger Grosser	F. R. Germany
Mr. Yugoslav Ilic	Australia
Mr. Richard Jagels	U. S. A.
Mr. Lim Seng Choon	Malaysia
Dr. Nili Liphshitz	Israel
Mr. E. D. Lobjanidze	USSR
Dr. M. N. B. Nair	India
Dr. Parviz Niloufari	Iran
Dr. L. van den Oever	The Netherlands
Dr. Olanrewaju A. Olatunji	Nigeria
Dr. J. J. Shah	India
Dr. Ben J. H. ter Welle	The Netherlands
Mr. Wong Tuck Meng	Malaysia
Dr. Beata Zagorska-Marek	Canada
Dr. C. B. Lantican	Philippines

なお、大会の内容、申込要領などの概要を下記に述べます。詳しいことは事務局へお問合せ下さい。

1. 期 間 昭和59年10月1日(月)～7日(日)  
研究発表: 10月1日～5日  
エキスカッション: 10月5日(金)夜発～7日(日)  
日光に2泊、日光周辺、森林、林業地、工場見学、  
7日夜東京で解散

## 2. 場 所 農林水産省林業試験場

## 3. 研究発表

## 1) 招待論文

H. Harada: The structure of the cell wall

R. K. Bamber: Wood Anatomy: past, present and future

## 2) 一般発表

口頭による発表とポスターによるものがあり、いずれでも選択出来ます。なお、今迄の受け付け状況を見ると、国内参加者の多くはポスター発表を希望しており、また、海外からの参加者でもポスター発表希望が少なくないようです。

## 3) プロシーディングス

すでにアブストラクトの締切りは過ぎましたので、アブストラクトは受け付けません。これから申込み

れる方の場合にはプロシーディングスの受け付けだけはいたします(締切り7月15日必着)。用紙は事務局へ請求下さい。

## 4. 登録申込受付

研究発表される方については、すでにアブストラクトは締切りましたが、プロシーディングスのみの印刷で同意される方は、今からでも申込みを受け付けます。発表されない方に関しては大会当日まで申込みを受け付けております。

## 5. 連絡先

〒305 茨城県稲敷郡茎崎町松の里1

農林水産省林業試験場木材部気付

太平洋地域木材解剖学大会事務局

Tel 0298-73-3211 内線 523, 525

## 森林経営に関するユフロ国際研究集会プログラム

10月14日(日) 午後6時より後楽園サテライトホテルで前日受付と顔合わせ懇親会

10月15日(月) 午前8時より東大農学部で当日受付、9時開会あいさつ: 南雲秀次郎, 基調報告: 鈴木太七

セッションI 森林計画 座長: Klemperer, 箕輪  
ニュージーランドの計画: Whyte (NZ), アメリカの国有林計画: Cortner (US), 日本の計画制度: 大島, アメリカ州有林計画: Ellefson (US), 韓国の計画課題: Park (Korea), チェコの経営: Priesol (CSSR), カナダの計画: Beck (Canada)

## セッションII 森林経営

A会場 座長: Navon, 天野, 中国の経営計画: Yu (China), 日本の私有林経営: 嶺, ニュージーランドの経営計画: Hosking (NZ), 栃木県の経営: 鈴木, 北海道の林業生産: 岡本, 収獲規整: Goulding (NZ), レクレーション施業: 阿木, ノルウェーの経営: Solberg (Norway), 水管理: 松隈

B会場 座長: Whyte, 西川, 森林工場: 石原, チェコの経営: Papanek (CSSR), 私有林経営: 諸戸, 経営事例: 大橋, 森林管理法: 加納, 資源と環境: 大金, デンマークの風倒: Helles (Denmark), 久万林業: 泉

## 10月16日(火) セッションIII 計画技術

A会場 座長: Helles, 末田, 線型計画: Gadow (South Africa), 自動地図: Corcoran (US), 線型計画:

Garcia (NZ), 数理最適化法: Rose (US), 私有林計画法: Choi (Korea), フィリピンのデータベース: 中島, 山田, 川崎, 安藤, 経営情報地図: 池田, 林産物供給予測: 天野, 林道網計画: 北川

B会場 座長: Harou, 今永, 意志決定法: Baumgartner (US), 計算機計画法: Garret, Prosser (US), 多目的計画: Parker (US), 環境評価: Bobier (US), 経営事例: 速水, 岐阜県の計画法: 戸田, 神尾, 地形分類: 吉田, 環境とリセセン: 沢田, "FORPLAN" 紹介: Navon (US), 午後都内観光, 夕方サテライトホテルで晩さん会

## 10月17日(水) セッションIV 施業技術

A会場 座長: Rose, 田中, 最適伐期: Kao (ROC), カラマツの生長: 野上, 多雪地広葉樹: 竹内, 幹形: 長嶋, 間伐と密度曲線: 阿部, 菊沢, タイの施業: Prachaiyo (Thailand)

B会場 座長: 木平, テリの施業: Olivares (Chile), 生長論: 内藤, 直径分布: 木梨, 柿原, 生長予測: 小林, ソ連の同齡林施業: Galitsky (USSR), 生長曲線: 末田, 択伐施業: 和

## セッションV 資源と経済

A会場 座長: Ellefson, 内藤, 財政計画: Hunter (NZ), 森林会計: Maurizio (Italy), 資源経済計画: Blandon (UK), アメリカの資源計画: Christensen,

Frantz (US), ポーランドの多目的経営: Lesinski (Poland), 収入と雇用: Robison (US)

B会場 座長: Cortner, 小林, 台湾の木材需給: Jen (ROC), アメリカの林業経営と経済性: Klemperer (US), カナダBC州の木材供給: Williams (Canada), オーストリアの経営: Joelle (Austria), 事業の評価: Harou (US), 世界の森林分布: 山田, 景観資源の計量: Iverson (US)

10月18日(木)~19日(金) エクスカーション 日光国立公園と鹿沼スギ林業福田孫光氏経営林見学。中禅

寺湖畔泊

この国際研究集会には海外15ヶ国から約40名、国内から約60名の林業家、行政官、研究者の参加が予定されています。そして経営実践や研究の成果が70件以上報告され、世界各国の現状、問題、課題が紹介されます。経営の実践と研究との結びつきを深め、人と人との交流を作る良い機会です。参加を希望される方、あるいは詳細については事務局まで連絡して下さい。

事務局 〒396 伊那局私書箱1 信大農学部

木平勇吉 電話 02657-2-5255

## 熱帯・亜熱帯樹木種子の品質向上についてのユフロ・シンポジウム報告

林業試験場 玉利 長三郎

ユフロ・ワーキンググループ S2.01.06 が主催する国際樹木種子シンポジウムは、これまで下記のように4回おこなわれた。

回	議 題	場 所	年	備 考
1	種子の調製	ベルゲン (ノルウェー)	1973	
2	種子の発芽生理	山中湖(日本)	1976	
3	樹木の開花と種子の成熟	ミシシッピ (アメリカ)	1978	S2.01.05 と合同
4	林木種子の貯蔵	オンタリオ (カナダ)	1980	

このグループは第17回世界大会後に特別分科会 P2.04.00 に変わったが、今回はその新しい特別分科会 P2.04.00 の名で、アセアン(ASEAN)・カナダ林木種子センター、国際研究開発センター(IDRC)、国連食糧農業機構(FAO)、タイ国林野庁、カセサート大学林学部、タイ林業協会およびタイ合板社と共催して、表記標題のシンポジウムが5月22日から26日まで、バンコク市のニューインベリアルホテルおよびアセアン・カナダ林木種子センターを会場にして開催された。

参加者は分科会リーダーの F. ボナー、シンポジウム常連の B. ワン、K. カムラ、M. シマク、R. ウィラン、S. プミパモンをはじめ、オーストラリア、パングラディッシュ、カナダ、FAO、フィンランド、イギリス、インド、インドネシア、日本、マレーシア、ネパール、中国、フィリピン、プエルトリコ、タイからの約80名で、会議はタイ側関係者のゆきとどいた進行で、演題が多い割に

は充実した討論とともにどこおりにくおこなわれた。シンポジウム終了後、5月27日から30日までタイ北部へのスタディツアーが持たれたが、筆者は参加しなかったため、シンポジウムのみについての概要と、このシンポジウムの主眼とする勧告等を記して参考に供したい。

22日、オープニングセレモニーを終って、10:30から24日の午前中にかけて、9セッションにわたり、林木種子の役割と一般の問題点、林木種子の品質に関する遺伝的、環境上の、また技術的な要因、林木種子品質の評価など37の演題報告について論議がなされ、24日午後から25日にかけては K. カムラ、M. シマク、B. ワンおよびコダック社の技術者を講師として Seed Radiography のワークショップがあった。25日上記ワークショップ終了後、日本の国際協力事業団の無償援助協力による林業開発プロジェクトで設立にいたった、タイ林野庁所属の中央森林研究所およびトレーニングセンターを参会者一同見学する機会があった。26日は同上研究所のバスでバンコクから150km はなれたサラブリー県ムレックに1983年に設立されたアセアン・カナダ林木種子センターに移り、P. ワスワニッチ所長の概要説明を聞いたあと、場内施設および圃場を見学してから、最終セッションで次のようなリコメンディションを討議提案した。

(記)

勧告

種子諸問題を取扱うユフロ・プロジェクトグループ P2.04.00 は世界の熱帯・亜熱帯地域の森林更新の重要性をきびしく認識していると同時に、現在進行中の再造

林の努力も問題を改善するには不十分で、その一因が期待する樹種の品質のすぐれた種子が不足することによるものであると認識する。森林生産物および水害防除、レクリエーション、混農林経営、野生鳥獣保護、気候緩和などの森林による恩恵を熱帯・亜熱帯の人々に確実に保証させてゆくために、次のように勧告したい。

1. 熱帯・亜熱帯地域の政府機関は最近急速に失われつつある経済的に重要なまた将来有望とされる郷土樹種の遺伝子保存の努力を推進する必要がある。
2. 政府および国際機関は熱帯・亜熱帯における混農林経営を包含する人工造林を成功させるカギは、品質のすぐれた種子を使用することにあることを認識して、種子の品質の改善と高品質種子の有効利用を確実にするための方法確立に必要なプロジェクトを優先させる必要がある。
3. すでに大量の林木種子が熱帯・亜熱帯地域の造林計画のために取り込まれているので、早急に種子の品質、詳細な産地記録をもちこんだ、共通の保証制度を確立する必要がある。
4. 種子取扱い上の改善には、施設および熟練技術者が不可欠であるので、林木種子と農作物種子技術者間の密接な交流と協力が望ましい。
5. 熱帯郷土樹種の種子問題解決に対しては国家計画の中で、層倍の努力と資金供与が必要である。

6. 熱帯・亜熱帯樹木の遺伝子源調査、蒐集と有効利用について、国際的なまた相互機関の尽力が拡大されることが望ましいので、該当する政府機関が、このことを奨励促進する必要がある。

7. 熱帯・亜熱帯領域の種子は、取扱上多くの問題点を抱えており、もっと積極的な研究投資が望まれるので、次のように勧告した。

- A) 母樹林および採種園用地基準の作製。
- B) 開花、結実生理と母樹林・採種園における開花結実促進方法の解明確立。
- C) 結実間断年数のながい樹種の開花と種子生態の解明。
- D) 植栽造林のための樹種および適地判定、天然更新を成功させるために、自然条件での発芽生態の研究。
- E) 基礎的習練と器具によって実験室で実行できる熱帯・亜熱帯産種子の検査方法基準の開発、将来は国際種子検査協会の規則として採用されることが望ましい。
- F) 開花結実困難種子の貯蔵。
- G) 種子微生物の研究—病原菌あるいは有益微生物の両面で
- H) 動物および昆虫による種子の食害問題。
- I) 窒素固定能力のある硬粒種子樹種の取扱いと検査。

## 昭和 58 年度 IUFRO-J 機関代表会議

59年4月2日、東京大学農学部図書館会議室において20名の機関代表が出席して、機関代表会議が開催され、次のことがらが報告、協議決定された。

出席機関および氏名（順不同、敬称省略）

岩手（千葉）、山形（北村）、東京（山口）、東農工（川名）、日本（片岡）、新潟（竹内）、信州（木平）、名古屋（鈴木）、三重（箕輪）、京都（佐々木）、京都府（大隅）、島根（三宅）、九州（西沢）、鹿児島（吉田）、宮崎（野上）、琉球（大宜見）、静岡（岩川）の各大学、関東育種（古越）、王子育種（千葉）、国立林試（議長：土井、幹事長：髯波、アジア地域理事：浅川、事務局：樋渡）

### 1. 昭和58年度の事業報告

- (1) IUFRO-J NEWS の発行 No. 20, No. 21,  
(各々 1,300部)

### (2) 会員状況

- A 会員 31 機関 988 名（内 8 名学生）  
B 会員 12 機関 15 口

### C 会員 5 名

- (3) IUFRO 理事会出席への支援

昭和58年7月10日から16日までブラジルのマナウスで開催された理事会出席旅費の一部を支援した。理事会報告は IUFRO-J NEWS No. 20 のとおりである。

(4) その他ユフロ部会活動等についての参加支援（ユフロ活動協力基金による助成）業務の一部に協力した。

### 2. 昭和58年度会計報告

- (1) 昭和58年度一般会計収支決算報告

別掲の通り承認

- (2) 昭和58年度特別会計収支決算報告

別掲の通り承認

- (3) 昭和58年度会計監査報告

西沢正久監事から別掲の通り、適正で異状のない旨報告。承認

### 3. 昭和59年度予算案

別掲の通り承認

## (収入の部)

## 昭和58年度一般会計収支決算書

科 目	収入予算額	収入決算額	備 考
前年度繰越金	573,347	573,347	
会 費			
57年度分(A会費)	29,000	27,000	27名
58年度分(A会費)	900,000	854,200	851名 851,000円, 学生8名(送金料引き) 3,200円
(B会費)	50,000	75,000	12県15口
(C会費)	—	3,000	個人会員3名
雑 収 入	20,000	4,439	普通預金の利息
合 計	1,572,347	1,536,986	

## (支出の部)

## 昭和58年度一般会計収支決算書

科 目	支出予算額	支出決算額	備 考
情 報 活 動 費	585,000	327,600	IUFRO-J NEW No. 20~21
会 議 費	90,000	—	
旅 費	—	500,000	第15回 IUFRO 理事会(於ブラジル, マナウス) 出席旅費助成
雑 費	247,347	1,860	払込手数料 1,400円 文房具代 460円
予 備 費	150,000	—	
特別会計へ繰入れ	*500,000	—	*4月5日に特別会計へ繰入, 定期預金とする。
合 計	1,572,347	829,460	

## 昭和58年度特別会計経理決算書

科 目	収 入 額	支 出 額	備 考
前年度繰越額	9,641,346	—	
利 息	379,082	—	
合 計	10,020,428	—	保管状態 (59.3.28) 定期預金 (6ヶ月) 9,302,574 定期預金 (3ヶ月) 717,854

## 昭和58年度会計監査報告

りません。経理証拠書類等すべて正確です。

昭和58年度収支決算について会計検査の結果異状あ

昭和59年4月2日 監事 西沢 正久

## (収入の部)

## 昭和59年度一般会計予算案

科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	207,526	(収入決算額) - (支出決算額) - (特別会計の繰入れ) = 1,536,986 - 829,460 - 500,000
会 費		
58年度分(A会費)	120,000	120名×1,000円
" (C会費)	2,000	2名×1,000円
59年度分(A会費)	900,000	900名×1,000円
" (B会費)	50,000	10機関×5,000円
" (C会費)	3,000	3名×1,000円
雑 収 入	3,000	利息(普通預金)ほか
合 計	1,285,526	

(支出の部)

科 目	金 額	備 考
情 報 活 動 費	615,000	ユフロJニュース 180,000×3回=540,000円 送料 500円×50ヶ所×3回=75,000円
会 議 費	90,000	会場借料 30,000円, 昼食代 2,000円×30人=60,000円
旅 費	400,000	第16回 IUFRO 理事会(於フィンランド)出席旅費の助成
雑 費	80,526	
予 備 費	100,000	
合 計	1,285,526	

4. その他の討議事項

(1) ユフロ-J 会費の送金方法

郵便局振込みにできないか否か。

(2) IUFRO NEWS の配布数がさらに少なくなるので、不足分を事務局で一括増刷して配布しうるか否か。

(3) ユフロ理事会出席旅費は政府支出が困難になった現状をふまえ、59年度はユフロJ一般会計より支出することを承認したが、今後どの費目から支出するか。

(4) 特別会計の使途

(5) IUFRO-J 事務局の一部を 林業科学技術振興所に依頼する件

(6) IUFRO-J NEWS はニュースとしての機能をもたせるために年3回発行を実施する。59年度は6月, 10月, 2月発行を目標とする。

以上のうち検討を要するものはできるだけ早い機会に結論をまとめ各機関に連絡する。 (以上事務局)

ポプラ産地 WP 集会のお知らせ

関係のある方々はすでにご承知と思いますが、本年9月30日~10月4日に、カナダのオッタワで、第17回の国際ポプラ委員会が開催されます。この機会に、S2.02.10ポプラ産地専門研究会が、“Asiatic Balsam Poplars”というテーマで研究集会を開くという連絡がありました。この連絡によりますと、ボランティア論文とポスター発表が募集されていますが、後者は所定の用紙で7月31日までに申込みが必要です。集会の日程、申込み様式は事務局にありますので、ご希望の方はご連絡下さい。

(事務局)

ユフロニュース配布数が減ります

IUFRO NEWS No. 43の表紙下段のアナウンスメントでもご承知のように、同号から各機関への配布数が減らされたと思います。理事への連絡によると、登録人員の1/3にしたいとのことでした。もともとユフロニュースは全会員に配布されていましたが、当時は船便で送られていたため、とくにヨーロッパ以外では時間がかかり不満がでて、数年前、航空便にきりかえることになったのですが、その際、部数が2名に1部の割合に減らされました。それがさらに今回減らされるわけで、ご不便とは思いますが、回覧して下さるようお願いいたします。

(浅川)

ユフロ森林病虫研究者名簿の作成について

1967年ユフロ S2.06.08 によって編集発行された森林病理学・森林昆虫学研究者名簿 (World Directory of Forest Pathologists and Entomologists) を今回改訂増補して発行することになりました。

この名簿作成のためのフォームの記載事項には、氏名、肩書、所属機関、アドレス、電話のほか、関心のある樹木・病原・昆虫の属名および専門分野が含まれています。完成品には、国ごとの名簿のほか、コードナンバーによって各事項の索引がのります。たとえば *Cryptomeria* の項をひくと、スギの病虫害に関心のある研究者がわかり大変便利なものです。

前回の名簿は、日本に関しては不十分なものでしたが、今回は完全なものにしたいと思います。ご協力をお願いいたします。国内の主要林業研究機関の病虫害研究室には個々にご案内しましたが、もしご覧になっていない方は6月末までに下記あてご連絡ください。

〒305 茨城県筑波農林研究団地内郵便局私書箱16  
林業試験場保護部昆虫科 小林富士雄  
電話 0298-73-3211 内線408

IUFRO-J NEWS No. 22

昭和59年6月25日

編集・発行：国際林業研究機関連合

日本委員会事務局